

河川維持管理基準に係る課題の解決に向けて



河川研究部 河川研究室 室長 山下 武宣 主任研究官 板垣 修

1. はじめに

近年我が国では大規模な水害等の自然災害が多発しているが、一方、高齢化などの社会的要因に伴う地域の防災力の低下、水防体制の脆弱化が進行している。このような中で、社会資本整備審議会「安全・安心が持続可能な河川管理のあり方検討委員会」提言（2006年7月）では、「限られた予算と人員・体制のもとで、災害対策にかかる河川等の社会資本の整備と維持管理について抜本的な戦略の見直しが不可欠」とされている。

このため、本省河川局、財団法人国土技術研究センター及び国総研が連携し、河川の維持管理の水準を明らかにしこれを維持していくための「河川維持管理基準」について維持管理目標や実施内容の設定等について継続して技術的な検討を進めている。

2. 技術的課題の抽出

これまでに、河川管理の現場における課題・施設の変状事例等（図－1、2）を踏まえ当面優先的に解決すべき技術的課題を抽出するとともに、「堤防」「河道」「河道内樹木群」「その他施設」の4つのワーキンググループを2006年11月に設置して調査・検討を進めている。

堤防（護岸を含む）については、これまでに堤防高さ（沈下量）の経年変化、地質区分図、補修事例等について資料を収集し堤防の縦断的な高さの変化等について分析を進めており、堤防の高さ・強度の維持管理等について研究を進める予定である。

河道については、縦横断測量成果、航空写真等を収集し出水と河床の変動との関係等について分析を進めており、洪水流下断面・河床の維持管理等について研究を進める予定である。

河道内樹木群については、過去の河川水辺の国勢調査（植物調査）結果、縦横断測量成果等を収集し冠水頻度等と樹林化との関係について分析を

進めており、流下能力確保のための樹木群調査頻度等について研究を進める予定である。

その他施設については、樋門等施設の被災・補修事例を収集し分析を進めており、樋門等施設の点検・評価手法について研究を進める予定である。

3. おわりに

今後とも、河川の維持管理に係る技術的課題等を継続的に収集し、現場により役立つ研究を進めていきたい。

最後に、本研究を進めるに当たって資料提供等にご協力いただくとともに現場における課題等についてご説明いただいた北海道開発局・各地方整備局、研究に関して適切な助言をいただいた河川局・（財）国土技術研究センター等の関係各位に心から御礼申し上げます。

【参考文献】

社会資本整備審議会安全・安心が持続可能な河川管理のあり方検討委員会：安全・安心が持続可能な河川管理のあり方について（提言），2006



図－1 低水護岸の変状例（2006年3月）



図－2 堤防のモグラ穴（2006年3月）